

さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

えづれ むっこ

江連 睦子（北海道水産研究所 さけます生産技術部）

2017年の北太平洋

漁獲数

2018年に公表されたNPAFC統計データによると、2017年1-12月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は4億6,067万尾で、前年4億3,732万尾の105%でした（図1A）。

魚種別に見ると、カラフトマスが3億15万尾で最も多く、全体の65%（前年比113%）を占めています。次いでサケが7,961万尾（構成比17%、前年比91%）、ベニザケが7,093万尾（構成比15.4%、前年比94%）と続き、これら3魚種で全体の約98%を占めています（図1A）。地域別では、前年に不漁だったアラスカが2億2,641万尾（前年比200%）と最も多く、次いでロシアが2億572万尾（前年比74%）と両地域で全体の90%以上を占めています。以下、日本2,217万尾、カナダ381万

尾、アラスカ以外の米国（ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州）251万尾、韓国6万尾と続き、分布の南限に近い日本や米国ワシントン州以南の地域では、近年減少傾向にあります（図1B）。

人工ふ化放流数

2017年1-12月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は50億5,582万尾で、前年51億3,682万尾の98%でした（図1C）。

魚種別ではサケが32億4,271万尾で6割以上を占め、これに次ぐカラフトマス12億4,839万尾と合わせると全体の9割近くを占めます（図1C）。地域別では日本が17億6,020万尾、アラスカ15億8,580万尾、ロシア10億4,394万尾、カナダ3億6,807万尾、アラスカ以外の米国2億7,965万尾、韓国1,816万尾となっています（図1D）。

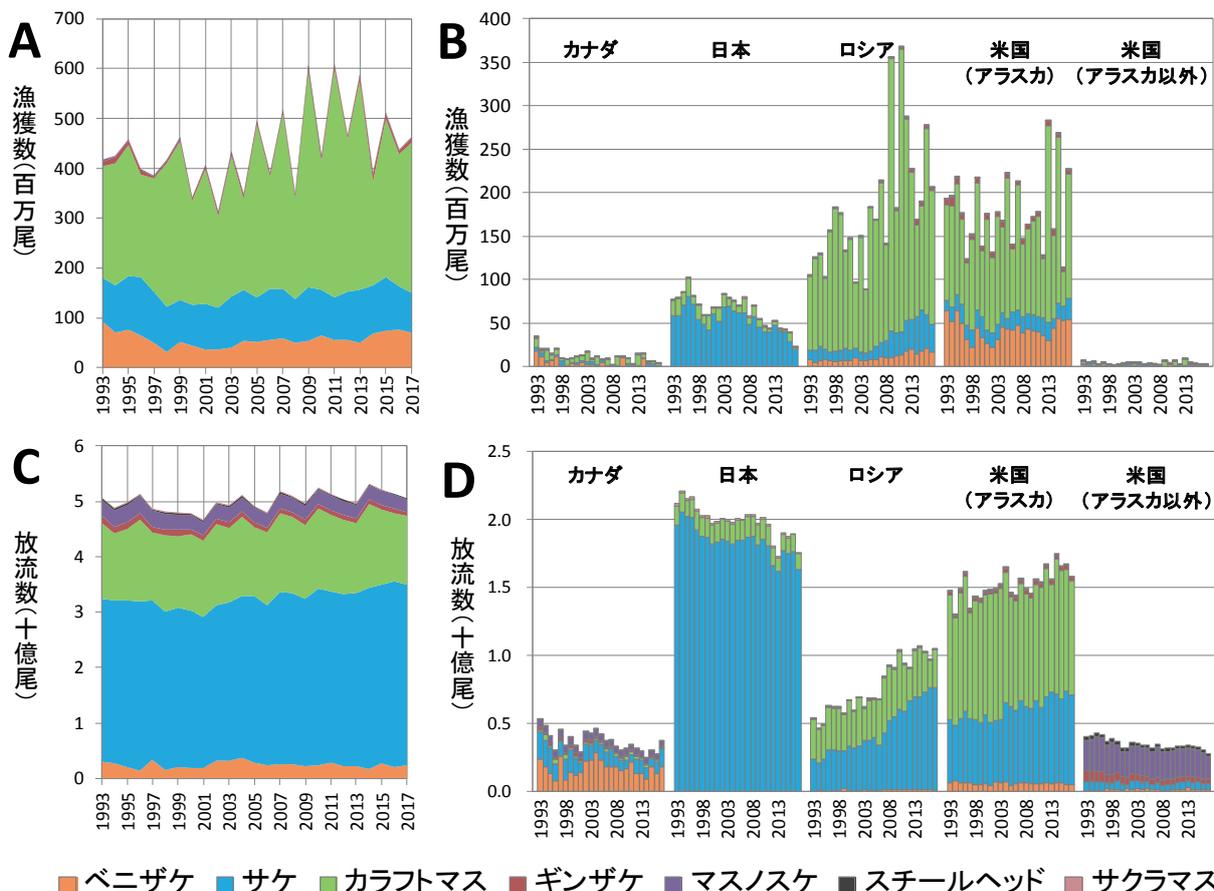


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)

A 及び B は「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 31 July 2018)」, C 及び D は「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 31 July 2018)」より作成（参照 2018-11-16）。アラスカ以外の米国はワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため図中では省略

2018年漁期の日本

サケ

2018年漁期(2018年8月~2019年2月)の来遊数(沿岸漁獲と河川捕獲の合計)は12月31日現在で2,966万尾、前年同期比132%となっており、近年で最も低い来遊となった前年を上回ったものの、引き続き低い水準となっています(図2)。このうち北海道では2,316万尾(前年同期比133%)、本州太平洋側では588万尾(前年同期比134%)と前年を上回りましたが、本州日本海側では62万尾(前年同期比91%)と前年を下回っています。採卵数は、12月31日現在で19億9,369万粒と、前年同期の113%となっています。このうち北海道は全道的には計画を満たす採卵数となりましたが、本州太平洋では、採卵計画数の95%、本州日本海では82%にとどまっています。全国の放流数は計画(17億6,352万尾)を若干下回る見込みです。

カラフトマス

カラフトマスは2年で回帰するため、偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると、奇数年級は2007年以降減少傾向を示していますが、偶数年級は一昨年度に大幅な増加が見られました。2018年漁期(2018年7月~11月)は678万尾(前年比551%)と、1983年以降で最低となった前年からは大幅に増加しましたが、一昨年と比べると2割程度と少ない結果となりました(図3)。採卵数は1億4,943万粒で計画数の86%となっており、放流数も計画(1億3,840万尾)を下回る1億1,960万尾ほどになると見込まれます。

サクラマス

2018年漁期の北海道における河川捕獲数は13,149尾(前年度比385%)と大幅に増加し、2000年以降で6番目に多い捕獲となりました。地域別には特に日本海側で前年比829%と大きく増加し、オホーツク海側でも前年比251%となっています。採卵数は904万粒で、計画数の179%となりました。なお、2018年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です(図4)。

ベニザケ

2018年漁期の北海道3河川(安平川・静内川・釧路川)における河川捕獲数は786尾で前年比206%となりました。

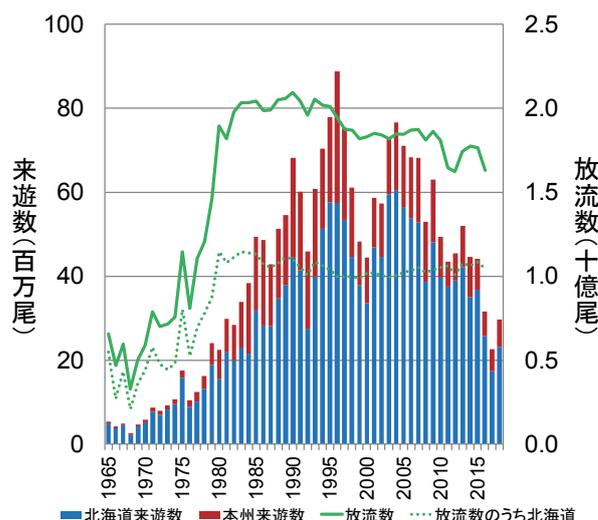


図2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数
2018年漁期来遊数は12月31日現在

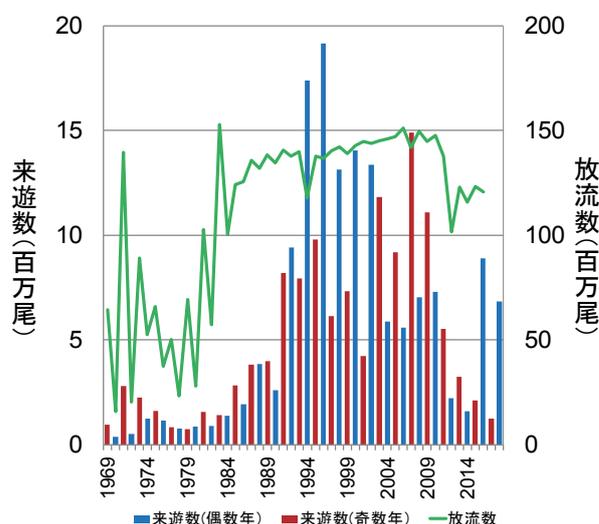


図3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数

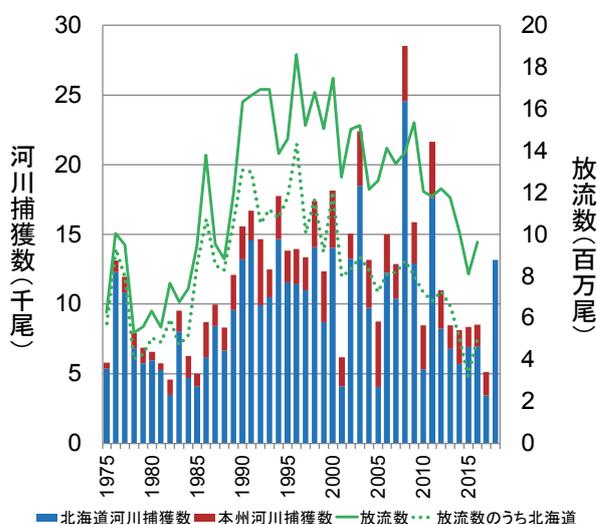


図4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数
(2018年漁期の本州河川捕獲数は確認中)